

【用語】佐貫—邑楽郡明和町 日向村—館林市日向町 古来—昔から  
今まで 船問屋—河岸の船積み問屋 往古—遠い過去、おおむかし  
津出シ—年貢米を河岸へ搬送すること 庭—船問屋の家先 口銭—雑  
税の一種、仲介手数料 野辺—野良、野原 進達—報告すること 下  
知—上から下へ指図すること、命令 邑楽郡下早川田村—館林市下早  
川田町 鶉村—邑楽郡邑楽町

【解説】渡良瀬川は、古くは利根川と別の水系であったが、「利根川東  
遷」と呼ばれる近世初期の瀬替え工事により、鬼怒川などとともに利  
根川の支流となった。渡良瀬川筋には元禄期、支流を含めて九カ所の  
河岸があつたといわれ、その上野国側の河岸が下早川田河岸である。  
開設年次は明らかでないが、寛文年間から館林領佐野御城米の江戸廻  
送を請け負い、幕末の弘化三年（一八四六）には館林藩領四六カ村のう  
ち一六カ村の年貢米の船積み河岸として利用された。船問屋は二軒あ  
り、年貢米以外では下野国葛生町（栃木県葛生町）からの館林藩御用の薪  
炭荷物や館林城下の商人荷物を請け負うなど、利根川通りの川俣河岸  
とともに館林藩の外港としての役割を果たした。

この文書は、幕末の一時期休業していた船問屋市郎右衛門が、嘉永  
四年（一八五二）営業の再開を認められたため、以前のとおり鶉・佐貫・  
日向村の年貢米の世話方を鶉村の泰吉へ依頼したものと思われる。